

# 社協だより

## 第100号

平成29年1月15日発行



社会福祉  
法人

### 七ヶ浜町社会福祉協議会 (ボランティアセンター)

〒985-0821 宮城県宮城郡七ヶ浜町汐見台7丁目8-153  
TEL(022)349-7781 FAX(022)349-7782  
<http://svc.miyagi.jp/dvc/index.php?gid=10209>  
E-mail:sitigahamasyakyo@ia8.itkeeper.ne.jp

しちがはま

## 社協だより

昭和63年6月1日  
第4号

社会福祉法人  
七ヶ浜町社会福祉協議会  
七ヶ浜町東宮浜字丑谷辺5-1  
☎ 357-2111 内線(202)  
印刷:今野印刷社



しちがはま

## 社協だより

昭和62年8月29日  
創刊号

社会福祉法人  
七ヶ浜町社会福祉協議会  
七ヶ浜町東宮浜字丑谷辺5-1  
☎ 357-2111 内線(202)  
印刷:今野印刷社



入浴・ふとん

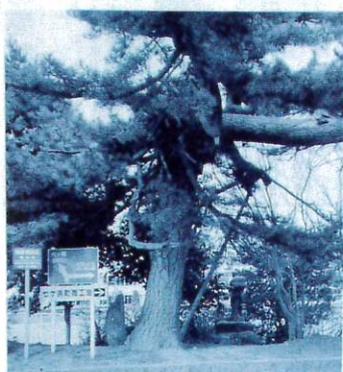
# おかげ様で 100号 を迎えました

しちがはま

## 社協だより

平成2年3月  
第12号

社会福祉法人  
七ヶ浜町社会福祉協議会  
七ヶ浜町東宮浜字丑谷辺5-1  
☎ (022) 357-4796  
印刷:今野印刷社



高齢化社会を支える

しちがはま

## 社協だより

平成4年3月  
第20号

社会福祉法人  
七ヶ浜町社会福祉協議会  
七ヶ浜町東宮浜字丑谷辺5-1  
☎ (022) 357-4796  
印刷:今野印刷社



地域にささえられて、あさひ園の

ふれあいネットワーク

## 社協だより

第41号(1998.12)

社会福祉法人  
七ヶ浜町社会福祉協議会  
七ヶ浜町東宮浜字丑谷辺5-1  
☎ (022) 357-4796  
印刷:今野印刷社



第1回社会福祉大会開催

### もくじ

- 七ヶ浜町社会福祉協議会会長あいさつ
- 七ヶ浜町長あいさつ
- 社協だよりと地域福祉のあゆみ
- あさひ園のあゆみ
- あさひ園のあゆみを振り返って
- 地域住民の拠り所となる社協を目指して
- 社会福祉法人改革に伴う理事・監事・評議員の役割について
- 生活支援体制整備事業について
- 第62回宮城県社会福祉大会
- 温かい善意に感謝いたします
- 第19回ふれあい広場あさひ園祭り
- 平成28年度おもちゃドクター養成講座
- 向洋中学校職場体験学習報告
- 平成28年度子育てサポーター養成講座
- 社協30周年記念ロゴマークの募集結果

## 年頭のごあいさつ



会長 塩野 信臣

町民の皆様には酉年の新年をめでたくお迎えの事と謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

さてこの度、「社協だより」を記念すべき100号として発行する事が出来ました。合わせて今年も、七ヶ浜町社会福祉協議会が法人化30年目を迎える年でもあります。これも偏に町民の皆様をはじめ、七ヶ浜町様、関係機関の皆様方のご支援とご協力の賜物と衷心より感謝を申し上げます。

また、初代会長(故)佐藤悦雄様、前会長鎌田節夫様、歴代の役員の方々、事務局長様方には、目まぐるしく複雑に変化して来た福祉課題の解決のため奔走され、新しい福祉サービスの創出に努められました。この礎に30年を迎え、「社協だより100号」の発行を迎えることが出来ました。先人に感謝を申し上げます。

当協議会では昨年六月に「第三期地域福祉活動計画」を策定いたしました。この計画の基本理念を「住民参加によるまごころで支え合う地域の絆づくり」と致しました。日頃からの隣近所つながりや交流を深めること、地域の支えあい活動がこの計画の目的達成につながるのです。

計画の推進には、地域の皆様は勿論ですが関係団体、関係機関の皆様のご理解とご協力が不可欠となります。

本年も厳しい社会情勢、経済状況が続く事と思えます。当協議会の果たす役割を役員一同が再確認し、地域福祉サービスの構築に頑張る所存です。

今後とも、皆様のご理解とご支援をお願い申し上げますと共に、ご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

## ご挨拶



七ヶ浜町長 寺澤 薫

この度、「社協だより」が記念すべき100号を迎えられましたことに、心よりお祝い申し上げます。

また、日頃から塩野会長をはじめ七ヶ浜町社会福祉協議会の皆様には、本町の福祉向上にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

「社協だより」は昭和62年8月の発行以来、29年間もの長きにわたり、七ヶ浜町社会福祉協議会の活動や福祉制度を伝える情報媒体として、町民をはじめ多くの方々に変遷し、大変親しまれてきた歴史ある広報紙であり、その分かりやすい内容と温かみのある紙面を毎回楽しみにされている方も多いのではないのでしょうか。

今、福祉制度は、時代の流れとともに課題は多岐に亘っております。高齢者福祉、障害者福祉、子育て支援や防災対策に至るまで、柔軟な対応が求められております。

このような中、七ヶ浜町社会福祉協議会の皆様には、障害者地域活動支援センターあさひ園の運営や、高齢者の見守り活動、地域コミュニティ構築のための地域イベントをはじめ、震災で被災した方々の心のケアや住民同士の交流活動など、町民の「心の復興」につながる様々な事業に至るまで、幅広い活動を展開いただいております。

七ヶ浜町社会福祉協議会が本町福祉行政推進の一翼を担っていることは言うまでもなく、高齢者や障害を持つ方々が生き生きと、楽しく安全に暮らせるまちを実現するためには、皆様との連携は必要不可欠であります。

町といたしましては、引き続き七ヶ浜町社会福祉協議会のご協力をいただきながら、本町の福祉向上のため充実した取組みを進めてまいりたいと考えておりますので、今後ともご理解ご協力をお願い申し上げます。

結びに、「社協だより」100号の発行を契機として、七ヶ浜町社会福祉協議会のみならず、ご隆盛をご祈念申し上げます。お祝いの挨拶といたします。

# 社協だよりと地域福祉のあゆみ

昭和 62 年に社会福祉法人七ヶ浜町社会福祉協議会（以下七社協）として新たなスタートを切った七社協は、その年から“社協だより”を創刊いたしました。身近な福祉情報はもちろん、世の中の変化・地域情勢の変化に基づく新たな事業の導入や、住民参加によって支えられた様々な事業についてご紹介してきました。これまでの“社協だより”を創刊号から 99 号までを振り返り、地域福祉のあゆみをご紹介いたします。

## 地域福祉のあゆみ

昭和 38 年 七ヶ浜町社会福祉協議会 創設

昭和 62 年 7 月  
社会福祉法人七ヶ浜町社会福祉協議会設立  
会員会費制を導入

☆初代会長に佐藤悦雄氏就任

昭和 63 年 3 月  
全戸配布『七ヶ浜町のふくしの展望』  
～みんなで推進する地域福祉計画～  
(行政・社協・住民が一体となって取り組みれば実現可能な計画。)

- ① 福祉展望を把握し、課題を明確化
- ② 住民の理解と参加を得る
- ③ 計画の実現という段階を踏んで推進

昭和 63 年 6 月  
町内老人クラブを対象「高齢者の生きがいに関するアンケート」実施

“シルバー人材センター”の必要性和 “高齢者創作館”への期待などについて調査

昭和 63 年 7 月  
あさひ園の前身 生活学級がスタート

※あさひ園のあゆみに写真掲載しています

昭和 63 年 8 月  
全戸配布『わが町の高齢者パワー』  
～高齢者の生きがいに関するアンケート調査報告書～

七ヶ浜町ボランティア友の会発足 120 名

## 社協だよりの紹介

任意団体として設立  
各種団体の運営、生活安定資金貸付など

1 S62. 8. 20 第 1 号発刊  
入浴サービス



2 S62. 10. 20 第 2 号発刊  
21 世紀への福祉プラン連載

3 S63. 1. 1 第 3 号発刊  
単身高齢者サークル（野菊会）  
宮沢賢治「世界がぜんたい幸せにならない  
うちは個人の幸せはあり得ない」



社協だより第 2 号

4 S63. 6. 1 第 4 号発刊  
『七ヶ浜町のふくしの展望』について



『七ヶ浜町の福祉の展望』



昭和63年12月30日  
七ヶ浜町ボランティア友の会  
ひとり暮らし高齢者対象「おせち料理宅配」

平成元年3月  
岩手県「女わざの会」より“裂き織り”伝授  
生活学級にて機織りを購入しスタート

**出来事**

七ヶ浜町役場の前庭にタイムカプセル  
埋設（公開は50年後）



平成元年12月  
共同作業所「あさひ園」開所 運営受託

平成2年3月  
『老人介護システムづくりに関する計画』策定  
★特別介護老人ホームの誘致を陳情

平成2年8月  
「ひとりぐらし老人実態調査」

平成4年4月  
『シルバー人材センター事業』スタート

平成4年10月  
家事・介護サービス事業「ゆい」開始  
～住民参加型の新しい在宅福祉～

平成5年5月  
「特別介護老人ホーム第二清楽苑」  
「七ヶ浜デイサービスセンター」開所

平成5年7月  
お弁当宅配事業スタート（月1回）  
対象：ひとり暮らし、夫婦のみの高齢者世帯、  
要介護の高齢者世帯

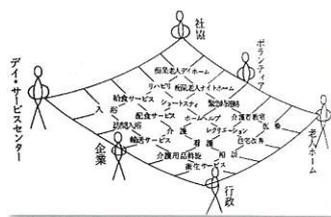
平成6年4月  
床ずれ予防エアーマット貸出  
（現在は終了しています）

5 S63.9.10 第5号発刊  
シルバー人材センターの設立へ向けて



『機織り機』

8 H元.5.25 第8号発刊  
老人介護システムの確立に向けて



『老人介護の支援システム図』

住民の声を集めて、行政・議会に陳情  
平成5年の開所へと結びつく

14 H2.10.1 第14号発刊  
「ひとりぐらしのお年寄りは何を求めているか」実態調査より

18 H3.9.1 第18号発刊  
シルバー人材センターの設立を目指して

21 H4.7.1 第21号発刊  
デイサービスボランティアの登録  
老人施設開所を前にして勉強会を開催



弁当宅配

27 H6.2.1 第27号発刊  
「住み慣れた家で暮らしたい」  
83歳男性のひとり暮らし高齢者の事例  
紹介～近隣で支え合う風土づくりの必要性

28 H6.6.1 第28号発刊  
汐見台地区社会福祉協議会の設立を  
目指して

将来の高齢化に備えて、支え合いの仕組みを導入しようとしたんですね。実現はしなかったものの、考えていただく良い機会となりました。

平成7年1月

阪神淡路大震災発災

神戸市兵庫区ボランティアセンターへ職員派遣

阪神淡路大震災はボランティア元年とも言われ、それ以降ボランティアへの関心が高まってきました。

平成7年4月

社協の1事業であった、シルバー人材センターが社団法人として独立

33 H8.2.1 第33号発刊  
本町も高齢社会へー高齢化率20%の地区も

☆平成7年10月 事務局長に鎌田節夫氏就任

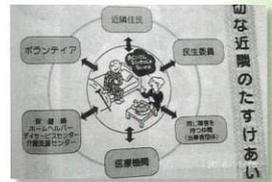
平成8年10月

「ひとりぐらし高齢者ケア事業計画書」発行

バブル経済が崩壊し、小さな町にも影響が影を落とし始めました。  
近隣のたすけあいの重要性が増してきました。

平成9年7月

代ヶ崎浜で福祉住民座談会  
『近隣のたすけあいを考える』



第37号ネットワークの図

平成9年9月

★ボランティアセンター事業開始

37 H9.8.1 第37号発刊  
今こそ大切な近隣のたすけあい  
近隣の住民同士が身近な福祉問題を話し合えるような地域づくりを目指して

平成9年11月8日

第1回ふれあい広場あさひ園まつり開催

平成10年10月2日

第1回七ヶ浜町社会福祉大会開催

ボ H10.2.1  
ボランティア情報誌創刊号発刊（～8号まで）

平成12年4月1日

介護保険スタート

「居宅介護支援事業」開始 ※ケアプラン作成  
「軽度生活支援事業」開始 ※介護保険非該当者対象  
「ホームヘルパー3級養成講座」開始

42 H11.4.1 第42号発刊  
「ひとりぐらしの高齢者の支援システムづくり」

“措置”から“契約”へ  
介護やささえあいの仕組みに置きな変革。  
ケアマネージャーなどの専門職が生まれました。

☆平成13年4月 事務局長に東海林榮芳氏就任

平成14年9月

病院送迎のお手伝い  
「移送サービス事業」開始

46 H12.4.1 第46号発刊  
「高齢者がつづるわが町の生活誌」

平成15年7月

宮城県北部連続地震  
矢本町、河南町へ職員を派遣

50 H13.1.9 第50号発刊  
福祉体験！大盛況  
移送サービス



平成15年10月

「精神障害者居宅介護支援事業」開始  
「ホームヘルパー2級養成講座」開始

☆平成15年10月 会長に鎌田節夫氏就任

平成16年1月

震災フォーラム『災害支援私たちにできること！』

震災フォーラム報告



震災フォーラム

平成16年4月

「災害ボランティアセンター体制整備事業」開始

☆平成16年4月 事務局長に渡邊一昭氏就任

平成16年6月  
「おもちゃの病院」開設  
(~平成18年3月まで)

平成16年11月  
新潟中越地震「小千谷市ボランティアセンター」  
職員派遣

平成17年3月  
ボランティア情報誌「ドリー夢」発行開始

平成19年1月  
「住民の福祉に関する意識調査」実施

平成19年7月  
子育てボランティア講座

平成19年8月  
ピアヘルパー養成講座開講

平成20年1月  
「社協の事業に関する意識調査」実施

平成20年4月  
「障害児放課後ケア事業」受託

平成21年1月  
七ヶ浜町社会福祉協議会法人化20周年記念大会

平成21年4月  
七ヶ浜町地域福祉計画策定(七ヶ浜町)

平成21年6月  
七ヶ浜町地域福祉活動計画(社会福祉協議会)  
「みんなで支える幸せプラン」策定

平成21年8月  
地域福祉推進会議 はじまる

平成22年3月  
社協新事務所完成  
汐見台7丁目8-153(旧鹿島建設事務所跡地)

☆平成22年4月 事務局長に星 庄衛氏就任

61 H16. 8. 1 第61号発刊  
おもちゃの病院は大盛況!

63 H17. 1. 1 第63号発刊  
ガンバレ新潟!! ボランティア報告

67 H18. 3. 1 第67号発刊  
災害ボランティアセミナー  
「忘れるな99%必ず来るぞ!」



第67号  
「災害ボランティアセミナー」

実際に社協事業に関わったことのある方にとっては、その大切さ・重要性を感じてもらっているものの、それ以外の方にとっては社協事業の周知度はまだまだ低いことがわかりました。



20周年記念大会

「みんなで支える幸せプラン」は、お知らせ版を全戸配布させていただき、本編は公民分館など身近な施設等に置いていただきました。



新事務所完成

平成22年10月  
「託児サポート協力員事業」開始  
「無料英語教室」(キッズ4～6歳対象)開催

平成23年3月11日  
東日本大震災発災(午後2時46分)

震源 三陸沖 マグニチュード9.0  
本町震度 5強  
午後3時51分 津波第一波到達(最大12m)  
津波浸水面積 約4.2km<sup>2</sup>(町面積の31.7%)

平成23年3月13日  
「七ヶ浜町災害ボランティアセンター」開設

平成23年3月24日  
NPO法人レスキュー・ストックヤード本格的に活動開始  
「ボランティアきずな館」開所

☆平成24年4月 事務局長に平山良一氏就任

平成24年8月  
「みなし仮設住宅への訪問事業」開始

平成25年5月  
七ヶ浜町障害者相談支援事業所  
「ふっとわ〜く」開所



ロゴマーク

平成25年10月  
七ヶ浜町地域福祉活動計画  
(第2期)「みんなで支える幸せプラン」策定

平成25年11月  
津波浸水域自立再建世帯  
訪問事業開始

平成26年4月  
見守り体制構築支援事業受託

☆平成27年4月 会長に塩野信臣氏就任

平成27年9月  
生活支援体制整備事業受託

平成28年4月  
託児サポート協力員事業受託

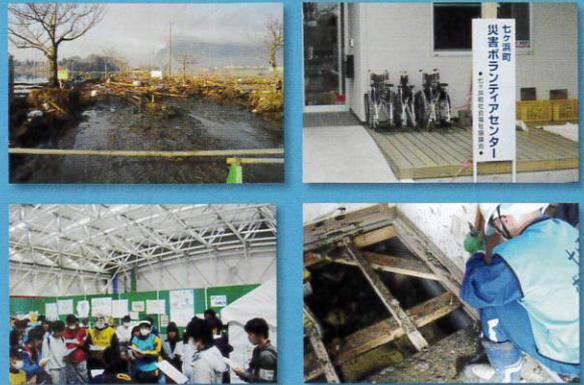
☆平成28年4月 事務局長に寺澤 薫氏就任

平成28年6月  
七ヶ浜町地域福祉活動計画  
(第3期)「みんなで支える幸せプラン」策定

平成28年10月  
買い物弱者対策事業受託  
代ヶ崎浜にて実証実験(H29年1月～3月)

80 H22. 7.1 第80号発刊  
新コーナー「虹色の漣」連載開始

東日本大震災



災害ボランティアセンター

83 H23. 9.1 第83号発刊  
「20,000人の力に支えられて」  
～七ヶ浜町災害ボランティアセンター～



みなし仮設住宅訪問事業



第2期  
みんなで支える幸せプラン

七ヶ浜町託児サポートのご案内

広げよう!  
つなげよう!  
子育ての輪



託児サポート協力会員募集



第3期  
みんなで支える幸せプラン

**平成 10年** **3月**



第1回ありがとう会  
(ボランティアさんへの感謝の会)

昭和63年7月『生活学級』から始まった、七ヶ浜町内初の障害者の日中の居場所づくり。平成元年12月に共同作業所『あさひ園』が開所し、社協が施設運営を受託しました。

社協だよりと共に歩んだあさひ園の歴史を、写真を交えながらご紹介いたします。



**平成 11年** **10月**



文化祭り国際村ステージにてダンスを披露

**平成 6年** **2月**



あさひ園茶道クラブ発足

**昭和 63年**

5月 福祉共同作業所設置を町に陳情

**7月**



知的障害者の生活学級開設(母子センター)

H12年4月 食堂増築

**初の梅干し作り**

4月 あさひ園茶道クラブ初めてのお茶会

**平成 13年** **10月**



国体の炬火リレー走者をあさひ園利用者さんが走った

10月 手芸班でディペアを作りたくさん売れた

**12月**



当時宮城県知事 浅野史郎氏来園、お茶席を披露

**平成 元年** **7月**



機織りを始める

**平成 14年** **5月**



青空市にて木工班デビュー

8月 あさひ園通信創刊

H7年9月「とっておきの芸術祭」国際村を会場にあさひ園利用者さんがお茶席を担当

**11月**



福祉共同作業所「あさひ園」新舎完成

12月 あさひ園 開園式

**平成 9年** **12月**



第1回ふれあい広場あさひ園祭り

H2年 畑作り

H3年5月 はし置き作りを始める

H4年4月 カモメ〜ル創刊

H5年4月 週5日制

9

### 平成 22 年

4月 社会福祉協議会事務所  
移転

6月



みお七ヶ浜とうふ祭りへ初出店

12月 あさひ園・サロン合同  
でクリスマス会 & 忘年  
会を行う

### 平成 23 年

3月 東日本大震災発災  
臨時避難所となった  
延べ 103 名利用、15  
日間開設

5月



復興市へ出店

### 平成 25 年

3月



第 20 回県南ブロック施設交流会  
記念大会を国際村で開催

H27年4月 園内での作業等、サロ  
ンあさひ園合同化  
午後の余暇（サロン）  
活動の充実を図る

H28年5月 新たな余暇活動として  
トールペイント・健康  
体操を始める

### 平成 19 年

3月 町生涯学習フェスティ  
バル初出店

4月 はらから福祉会みお七ヶ  
浜へ利用者 5 名移行

8月



エネオスふれあいフェスティバルへ出店

12月



クロネコヤマトメール便配達事業開始

### 平成 20 年

8月 1 t トラック納車

9月



空き缶圧縮機納入

### 平成 21 年

3月 シニアフェスティバル  
へ出店

11月



地域活動支援センターに  
移行により増築、開所式

6月 親子すまいるフェスタ  
へ出店

### 平成 16 年

2月 うどん作りに挑戦

10月



クリーンサポート開始

11月



パソコン講習始まる

### 平成 17 年

5月



たい焼き販売開始

9月 七の市へ初出店

### 平成 18 年

1月 ニューマグネ(株)電  
池検品開始

4月 社会福祉協議会が指定  
管理者に委託

4月



アルミ缶回収事業開始

## 社協だよりと地域福祉のあゆみ あさひ園のあゆみを振り返って

### 東海林 栄芳氏

社協の法人化当初から福祉活動専門員として従事し、社協だより創刊号から編集。

平成13年4月から事務局長に就任。吉田浜在住。七ヶ浜福祉相談室を運営。



平成14年当時の東海林さん  
あさひ園利用者と共に

### 社協の事業の根幹を成すもの。

それは“調査”とそれから得られた“ニーズ”にある。

当時、社協の法人化を進めながら、行政から療育手帳保持者や身体障害者手帳1・2級を持っている方、寝たきりの高齢者のリストなどを提供していただき、1件1件丁寧に訪問調査を行った。

寝たきりの高齢者からは、「お風呂に入りたい。」(⇒入浴サービス事業)、手帳をお持ちの方からは、「日中に活動できる場が欲しい。」(⇒あさひ園の前身である「生活学級」の創設)、老人クラブの会員さん向けの調査からは「高齢者パワー」(⇒シルバー人材センター事業)と住民の声と共に歩んできた。当時、車を持たない私は自転車で訪問して歩いたことを思い出す。

個人情報の壁など、当時とは状況が変わっているのも事実だが、住民からの生の声を届けてもらえる社協でなければならない。そしてその声に積極的に耳を傾けられる社協であってほしい。100号記念誌の発行おめでとうございます。

### 障害があっても働ける場所を。

100号記念誌の発行おめでとうございます。

「生活学級」からスタートした「あさひ園」は、障害をもっている方が毎日通って仕事をする場所である。事務局長に就任して一番最初に思ったことが、「少しずつでもいい、あさひ園で仕事をする方の給料を上げていきたい。」であった。うどんづくりなどいろいろと試行錯誤しながら、たどり着いたのが「たい焼き販売」であった。作業が多岐に分かれており、適材適所で作業が分担できる。今でも町の行事で出店すると長蛇の列ができているのを見ると微笑ましく、誇らしく思う。

次の年には「アルミ缶回収」をはじめ、七ヶ浜町内の多くの企業や個人に協力をいただくことができた。意識しなければただのゴミになってしまうが、目的を持って集めると資源となる。たくさんの住民と触れ合うことのできるこの事業は得るものが大きい。

さらに次の年はクロネコヤマトと契約を結び、野山地区と汐見台6丁目のメール便宅配事業を開始した。

働く場所がある。毎日通う場があるということは、誰にとっても幸せなことである。これからも自分を信じ、住み慣れた七ヶ浜町で未永く生き生きと生活していただけるよう、アンテナを高くして、あさひ園の利用者の仕事も充実させていただきたい。

### 渡邊 一昭氏

昭和38年より七ヶ浜町役場に勤務。財政課長、保健福祉課長などを歴任し、七ヶ浜町役場を定年退職。平成16年4月より七ヶ浜町社会福祉協議会の事務局長に就任。平成22年からは民生委員に選ばれる。松ヶ浜在住。



渡邊一昭さん

## 地域住民の拠り所となる

## 社協を目指して

社協だより第3号のあとがきにあった、宮沢賢治の言葉

「世界全体が幸福にならないかぎりには、個人の幸福はありえない」

が気になって調べていたところ、次のような文章に出会った。

宮沢賢治は、30歳のとき花巻農業高校の教員を辞め、農民とともに生きる決心をした。そして、昼は鋤を手に夜は農民相手に勉強会を開いた。その教科書の冒頭に

「世界全体が幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と書かれていた。

まず、宮沢賢治の言う「個人の幸福」とは何かを自分なりに考えてみた。おなか一杯ご飯を食べたいとか、お金をたくさん稼ぎたいとかいう欲望だろうか。人が欲望を満たしたとき、個人の幸福を得ることができると考えると何か違うように思う。

次に、私自身にとって幸福なときとは何かを考えてみた。教員として毎日の生活を送っている私は、生徒が達成感を得てうれしそうにしているときに感動を覚える。生徒が目指していた大学に合格したとき部活動で大切な試合に勝利したとき、自分が少しばかりかかわったことで人が喜んでい様子を見るときが幸福なのだと思う。

個人の幸福とは、自分のこれまでの経験を考へても誰かが幸せになることによつて得られるのではないかと考える。



世界全体という広い世界を考えるのは少し難しいが、この『学校』のことを世界ととらえたときこの『学校』全体が幸福にならないければ生徒・教職員の個人の幸福も得られないのだろう。賢治は、今まさに私たち『学校』に関わるものすべてに必要なことを伝えてくれているのだと考えたい。

先日、テレビで放映されていた映画「ST AND BY ME ドラえもん」を見てあるシーンが心に残った。しずかちゃんのお父さんがのび太くんとの結婚式を翌日に控えた娘に対してこんな言葉を話していた。

「人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことができる。それが人間にとって一番大切なこと……それができるのび太くんを選んだ娘を誇りに思う」と。

これといった取り柄がなくても、人の幸せを願うことができる人たちがたくさんいる世の中になればこれほど素敵なことはないと思ふ。

《社会科 北畑賢一郎氏のコメント》

大谷中学高等学校「一週一言」より

『学校』の部分で、この文章を読む人それぞれに変換(生徒・教職員のところもそれに合わせて)してみてもいいかだろう。「七ヶ浜町」「地区」「町内」若しくは「家庭」。社協の場合は、「地域」「地区」を入れてみると、社協が持つ使命は明白である。地域福祉は地域住民と共に、「地域」や「地区」の幸福を追求し、そのための行動を地域住民と共に行うことである。

「人の幸せを願い、人の不幸を悲しむことができる住民」が、そのための行動を起し、思っていた時に、相談してもらえようような社協でなければならぬ。

その行動を実現することは簡単ではない。一人の地域住民の声を数人で共有し、更に共感の輪を拡げ、実現へ向けての階段を作っていく。その道しるべとなるのが地域福祉活動計画である。七ヶ浜町社会福祉協議会は、法人化した当初、「七ヶ浜町のふくしの展望」を発行し、平成21年からは「みんなで支える幸せプラン」を第3期計画まで策定した。次の10年計画は、より地域住民の行動に近づけるような計画づくりをしたい。

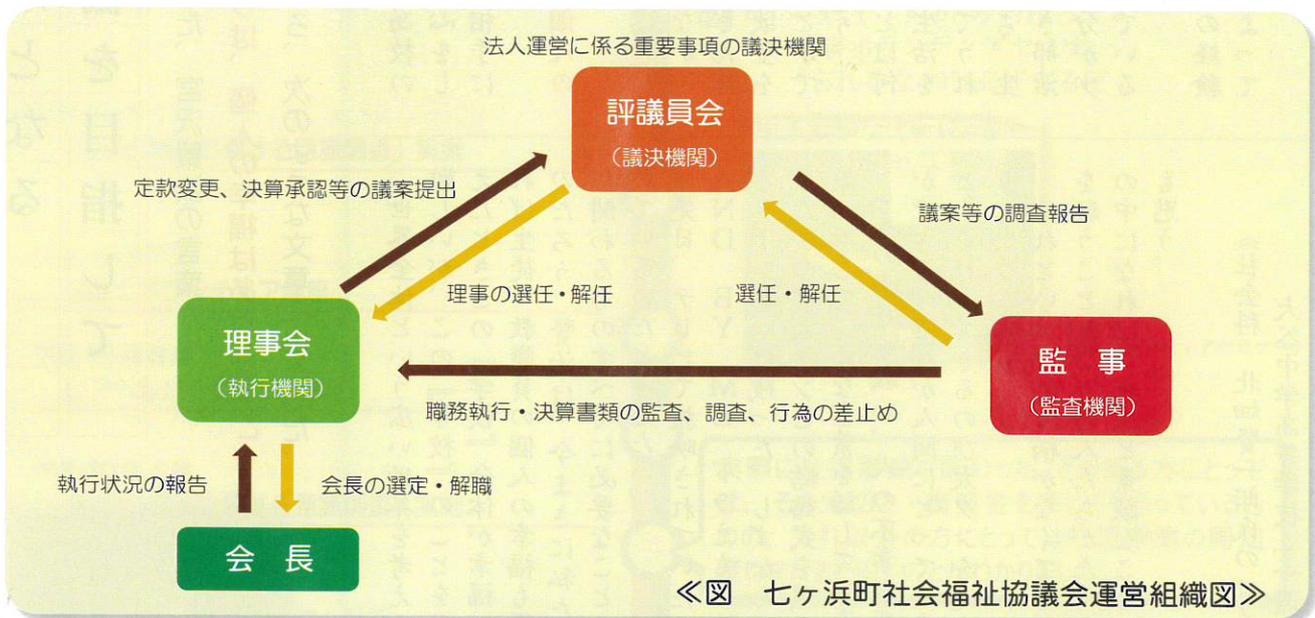
「地域全体が幸福にならないかぎりには、個人の幸福はありえない」を胸に、七ヶ浜町内すべての地域住民とともに、手と手を取りあって、支え合う地域づくりをめざしていきます。

## 社会福祉法人改革に伴う、理事・監事・評議員の役割

平成28年3月の社会福祉法改正により、社会福祉法人制度の見直しが行われました。従来は任意設置であった評議員会（諮問機関）が、平成29年4月以降、すべての社会福祉法人が必ず設置しなければならないこととなりました。

七ヶ浜町社会福祉協議会は従来より評議員会を設置し、住民の皆さまより大変貴重なご意見やご指摘をいただいております。今後もさらなる地域福祉発展のため、理事・監事・評議員のご協力のもと、住民目線の住民のための福祉活動を行っていく所存です。

そのため、改めて社会福祉協議会経営の流れと、それぞれの役割をご紹介します。



### ● 理事会の構成・役割

地域福祉の推進役として、地域の代表（区長・民生委員等、施設を経営する長職）で構成されています。理事会においては法人・施設の経営方針を立て、事業計画や予算等の法人の重要な執行機関です。理事は運営全体の責任を負う、大変重要な責務を担っています。

### ● 監事（監査機関）・役割

社会福祉協議会のお金の流れを確認する役割です。行政からの補助金や町民の方々から会費として集めている大切なお金が適切に事業に運用されているか監査していただく機関です。

【業務執行及び法人財産の確認、不正を発見した場合評議員会へ報告、業務執行及び法人財産について理事に意見】

### ● 評議員会の構成・役割

法律上、「社会福祉法人の適正な運営に必要な識見を有するもの」のうちから選任することとしています。評議員会は、理事会で立てた方針を審議いただく非常に重要な議決機関です。法人運営を監督する役割を担っています。

そのため、評議員の選任・解任は理事会で行うことはできず、評議員選定委員会にて行われます。

【理事・監事の選任及び解任、計算書類の承認、解散の決議、定款の変更 等々】

# 七ヶ浜町生活支援体制整備事業について

## 生活支援体制整備事業とは？



社協だより 97号でも紹介をしました、生活支援体制整備事業は単身または高齢者のみの世帯、認知症高齢者が増加する中、地域で生きがいを持ちながら生活を続けていくためには、医療や介護のサービスだけではなく、地域での支え合い・助け合いが重要となってきます。

専門職だけではなく、地域の方々（地域のプロ）と共に話し合い、地域で行われている支え合い活動や助け合い活動や地域の課題を把握しながら、誰もが暮らしやすい地域（七ヶ浜町）づくりを推進していく事業です。

## 生活支援体制整備事業が目指すべき姿



誰もが「住み慣れた地域で自分らしく生活したい」と思っているはずですが、そこで自分らしく生活を継続していくためには、つながりをつくるということが大切です。

体が弱くなってきて、身の回りのことができなくなったりすると、専門職の力を借りるようになります。そうすると、地域とのつながりを無くしてしまう傾向がありました。

しかし、それでは「誰もが住み慣れた地域で自分らしく」ということに反していることになります。

その為、これからの地域社会は、住民同士が配慮をしていく町づくり、地域づくりをしていくことを目指します。個人の問題を地域の課題としてとらえることが重要となり、すなわち、お互い様という観点をもち、つながりを切らない生活ができます。



もしも自分が高齢になり、住み慣れた地域で暮らすことが難しくなった場合、あなたも周りの方の支えが必要になることは考えられませんか？もしも自分が認知症になった時、地域とのつながりを切られたらどう思いますか？

そう考えた時、以前と比べると地域とのつながりや支え合いが薄れてきていませんか？

七ヶ浜町では今一度つながりを切らない、七ヶ浜らしいゆたかな未来のために、生活支援コーディネーターを配置し、住民の中から選ばれた委員による協議体を設置することで、地域の課題、地域づくり、人づくり、支え合い等について協議を重ねております。



### 協議体

協議体は平成 27 年 11 月 11 日に発足しました。平成 27 年度は 4 回の会議を行い、今年度は 5 回の会議を行いました。

今後は住民主体の活動を増やし、今ある活動を活性化できるよう議論を重ねていこうと思います。

### 今後の抱負

七ヶ浜町で行われている住民主体の活動について、詳しく知りたい為、生活支援コーディネーターが町内の活動取材しにいきます。その際はどうぞ協力をお願いいたします。皆様の活動を町内に広げてみませんか？その活動が、元気の源、支え合い、地域づくりにつながります。七ヶ浜町らしいゆたかな未来を築きあげていく主役は皆さんなのです。

# 温かい善意に 感謝いたします

次の方々からご寄付をいただきました。  
(平成28年6月24日～11月25日)

- 匿名様 (東京都)…………… 30,000 円
- 匿名様 (仙台市)…………… 3,000 円
- 七ヶ浜町グラウンド・ゴルフ協会様  
… 6,000 円
- 和太鼓美鼓音様(兵庫県)  
… 20,000 円
- 昭和 27 年度卒松ヶ浜小・亦楽小  
同級会参加者一同様 … 17,841 円
- 箕面市社会福祉協議会様(大阪府)  
… 17,720 円
- 多賀城・七ヶ浜商工会工業部会  
七ヶ浜町職工組合様 … 13,400 円
- 昭和 39 年卒業松ヶ浜小学校  
亦楽小学校同級会様 … 40,236 円
- 作新学院様(栃木県) … 200,000 円

《熊本地震義援金として》

- 長養寺住職 萬山光政様…11,666 円  
(熊本県共同募金会へ送金いたしました。)

## 第62回宮城県社会福祉大会

平成28年11月1日(火)  
於 仙台サンプラザ

長年地域福祉にご尽力いただきました皆様方に、表彰状や感謝状が手渡されました。

宮城県社会福祉協議会会長表彰

社会福祉協議会役員功労者

渋谷寅吉様(境山)

宮城県共同募金会会長表彰

奉仕団体

同性寺花園会様

葦航寺花園会様

宗教法人金剛寺様

篤志寄付者

鳳寿寺住職

鈴木義博様(東宮浜)

養松院住職

榎木泰教様(松ヶ浜)

宮城県民生委員児童委員協議会会長表彰

民生委員児童委員功労者

渡邊一昭様(松ヶ浜)

遠藤貞子様(汐見台南)

松葉恵美子様(汐見台南)

土井義子様(代ヶ崎浜)

渡邊文雄様(遠山)

太田政興様(境山)



## 第19回 ふれあい広場 あさひ園祭り

ご来場ありがとうございました

10月16日(日)「第19回ふれあい広場あさひ園祭り」を盛大に開催しました。今年は汐見太鼓の皆さんに力強い太鼓の響きでオープニングを飾って頂きました。

当日は町内の行事等と重なっていたので、客足が心配されましたが時間の経過とともに、たくさんのお客様がご来場くださいました。

利用者さん方もそれぞれの担当場所でボランティアさんやお客様とのふれあいを楽しんでいたようで、そちらこちらで笑顔が溢れていました。お楽しみ抽選会も恒例となり大勢の方で盛り上がりました。

今回も準備から販売、後片付け等のお手伝いを頂いた多くのボランティアさん方や保護者の皆様、そして抽選会の景品や野菜等の提供にご協力下さった方々に心から感謝申し上げます。来年は記念すべき第20回目のあさひ園祭りとなります。更なるあさひ園へのご理解とご協力を頂きますようお願いいたします。



## 報告

## 平成28年度 おもちゃドクター養成講座 開催しました



講師：おもちゃびょういん  
「ひまわり」勝又先生

平成28年11月20日・27日、12月4日の3日間、子育て支援事業の一環として『おもちゃドクター養成講座』を社会福祉協議会にて開催しました。

おもちゃびょういん・ひまわりのドクターさんを講師にお迎えし、おもちゃ病院の役割とドクターの心構え、基礎知識などを学び、最終日は制作実習として電子オルゴールを制作しました。

今回は大学生や女性の方々を含め11名の受講があり、受講した皆さんは真剣な眼差しで先生の講義を聞き、積極的に質問される姿が見られました。

今後は、おもちゃの修理を通して子供た



ちの物を大切にする心を育み、子供たちを笑顔にする『おもちゃドクター』として活躍して下さることを願っています。

1月22日(日) 国際村で行われる『あそぶさございん七ヶ浜』にて、おもちゃ病院を開院します！是非みなさんお越し下さい。

## 向洋中学校 職場体験学習報告

平成28年11月16日から11月18日の3日間、七ヶ浜町社会福祉協議会に向洋中学校2学年の生徒さん3名が職場体験学習に来られました。

社協やあさひ園、同行訪問など、短い期間でしたが様々な事業を実際に体験していただきました。

3人とも毎日真剣に取り組み、社会人としての職業観などを学んだようです。今後社会人として活躍する日が来るのを楽しみにしています。

今回ご協力いただいた住民のみなさまや関係機関の方々に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



**報告**

平成 28 年度  
子育てサポーター養成講座  
開催しました



平成 28 年 11 月 9 日、10 日と七ヶ浜町子育て支援センターのホールを会場に、子育てサポーター養成講座が開催されました。

子育てをする親御さんを取り巻く現状や、子どもが病気やけがをしたときの判断など、現在子育てをされているお母さん方が聞いても大変ためになるお話でした。

現在ボランティア活動を通してお子さん方と関わっている方々が多く受講して下さい、活動する上での留意点などを確認でき、大変有意義な講習会であったと話していました。

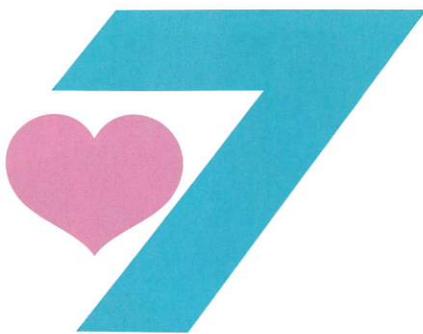


最後に修了書を一人ひとりに手渡し、次年度以降の講座にも参加いただけるようお願いしました。今後もより多くの皆様の参加をお願いいたします。

**決定!! 社協30周年記念ロゴマーク**

社協だより第98号で募集いたしました、「社協30周年記念ロゴマーク」にご応募いただきまして誠にありがとうございました。

100号記念誌作成委員会において厳正なる抽選を行いました結果、下記のロゴマークに決定いたしました。



◀ 応募者 ▶

菊池 新一 様 (要害)

● デザイン・コンセプト

七ヶ浜の「7」を海と空の青色でハートを組み合わせたデザイン

● コメント

「しばらくぶりに頭を使いました。使っていただいて幸いです。」

◎このロゴマークにつきましては、おもに平成29年9月に予定されている社協30周年記念事業とその関連事業において使用させていただきます。  
(全国共通の社協ロゴマークや文字などを追加させていただくことがあります)